

大学の国際化に向けたチャレンジ

帝京大学八王子キャンパスの国際交流センター OUCHI COMMONS

本号では、大学の国際化に「Teikyo Model」を掲げ組織と支援を充実させている帝京大学八王子キャンパスを訪ね、国際化施策の中心を担ってこられた国際交流課課長の田口仁さんにお話を伺った。

◆ 帝京大学概要 10 学部 33 学科 11 研究科 **学生数** 22,400 人
キャンパス 板橋キャンパス 八王子キャンパス 宇都宮キャンパス 福岡キャンパス
 霞が関キャンパス **留学生数** 1,148 人 (32 か国・地域)



——「SHOSAI」や「CHANOMA」と“和”の雰囲気を出し出す素敵な施設「OUCHI COMMONS」ですが、大変盛況ですね。

おかげさまで、2021年度に OUCHI COMMONS が開設されて、昼休み時間はほぼ満席です。留学生の第三の家というコンセプトが浸透しているかなと思っています。OUCHI COMMONS のロゴは、畳の四畳半を模しています。

—— OUCHI COMMONS と国際交流課が一つの空間にオープンに共存しているのですね。学生のたまり場になると、にぎやかですが、騒々しいという職員の方も出てくるのではないのでしょうか。

たしかにそういう声はあるかもしれませんが。国際交流課はオープンカウンターと一緒に仕事をしている職員からするとにぎやかだな、と(笑)。でもそれを根幹から否定する人は誰もいません。

むしろ「活気があっていいよね」と言われます(笑)。

—— 2014年から500人ほどだった留学生数を八王子キャンパスだけで1,000人にしようという目標を掲げ、この間コロナ渦も乗り越えて順調に増えていっているわけですね。もともとの大学の国際化に対するコンセプトというのは、どういふところから来ているのでしょうか。

本学は建学の精神や教育理念、教育指針の一つである“異文化理解の学習・体験する「国際性」があり、そのために様々な取り組みを行ってきました。特に「国際化ビジョン2014」の存在が大きいですね。

—— 海外への留学生派遣とか外国人留学生的の受入だけではなくて、職員とか、教員も「グローバルコンピテンシー」として国際化を標榜しているらしいですね。そういう意味では大学全体として、キャンパスを国際化するといった印象をすぐ受けました。

八王子キャンパスは学内の国際化という大きなミッションがあり、外国人留学生的の受け入れを7年後に1000名にするKPIが示されました。また「外国人留学生的の受け入れに伴う環境整備」、さらに「海外大学等との連携」にも目標、すべて定量的に目標がきちんと定められているので、我々はそれらを目指すことになったということです。

—— 思い切った奨学金制度を作ってもらっていますね。1年目は全員が40%減免となりますが、これは学生募集のインセンティブとして有効だとお考えですか。

本学は2020年度から「留学生基礎力調査」を入学前・進級時に調査を行っています。目的は



田口さん

IR、タレントマネジメントに近い思考の必要性から、在籍する外国人留学生的の資質、思考、能力、日本語学習歴等のデータを蓄積しています。その中には新入生対象に「本学以外に受験した大学を教えてください。」といった設問もしています。これにより他大学との奨学金制度の差別化にもつながると考えています

—— 他の地域、たとえば欧米などについてはどうでしょう。

欧米については、イギリスやアメリカといった西側の国ばかりでなく、ハンガリーやルーマニア、ブルガリアといった東欧諸国もアプローチしています。

—— 奨学金制度では、2年目3年目になると、成績上位の10%または20%の者が対象と絞られますが、これで頑張る学生はいるのでしょうか。

留学生はがんばりますね。2年次以降の学納金



OUCHI COMMONS

に大きな違いがありますから。

—— ベトナムも一人当たりのGDPが3000ドルを超えて、成長著しいものがありますが、まだまだ経済的に厳しい学生は多いということですね。

先ほど紹介した「留学生基礎力調査」における設問に「アルバイトの有無」があります。データ上では就業率を見ると中国籍の留学生は4割弱がアルバイトをしています、ベトナムは8割以上の学生がアルバイトをやっているという結果が出ています。

—— そういったことを全てアンケート（留学生基礎力調査）で洗い出し、個別の留学生フォローにつなげていらっしゃるんですね。これだけの規模の大学で、国別、地域別の留学生対応戦略がきちんと練り上げられているというのはすばらしいと思います。

相手を知らずして課題は克服できないと考えています。学生を可視化するためにも、この「留学生基礎力調査」を徹底的に行っています。この調査と学内データを組合せ、施策を展開したいと考えています。すべての学生の個別支援とまではいきませんが、この調査で可視化された事案はフォローしたいと思います。

—— こういう調査をやって、その結果によって支援・教育サービス戦略を立てるということは、本来やらなければいけないことだと思いますがなかなか実現できないことだと思っていました。その結果がOUCHI COMMONSや日本語教育センターなど施設運営にも現れているわけですね。ではOUCHI COMMONSの国際交流アシスタントとバディ制度について教えてください。

OUCHI コンシェルジュはOUCHI COMMONSの受付業務を担当してもらっています。「留



日本語教育センター

学生の留学生による留学生のための OUCHI COMMONS」を体現してもらっています。来訪する学生の相談に応じる役目を担うメンバーが OUCHI コンシェルジュです。コンシェルジュには日本人も留学生も在籍しています。またバディ制度については入学する留学生のサポートする先輩を紹介する制度です。留学生全員にバディというわけではなく、入学時の生活総合ガイダンスでバディが必要かどうかのアンケート取っています。そこで「必要」と答えた学生には先輩学生1人つけています。日本語学校の先輩がいるとか、留学生会の仲間がいるといった人は不要でしょうから、誰も知り合いがいないとか、相談できる人がほしいという学生にバディを付けています。

——日本語学校の先生に「留学生たちが進学して良かった大学だと言っているのはどういう大学なのか」という質問すると、やはり個別対応をきちんとしてもらえるということが一つ非常に大きなポイントでした。それは規模が小さい単科大学だったりすると、留学生の面倒を一生懸命見ている職員の方がいたりしますが・・・

留学生基礎力調査で留学生が必要としている支援や勉学、生活状況など、様々なデータをとっているのは彼らの思考や状況、要望をどれだけ知るかということが重要だからで、そうでないと1000人に個別の対応は出来ません。そこで支援

が必要な学生、例えば就職を希望している学生、進学を希望している学生というようにカテゴリーに分けピックアップしてサポートするようにしています。

—— OUCHI COMMONS の上階はやはりオープンスペースで茶室をイメージした日本語教育センターで、常時日本語の先生とコンタクトできるようになっているんですね。日本語能力試験(JLPT)のN1合格で4単位取得できる。さらに検定料も負担してあげるといふ。

検定料の支給は合格した場合です。合格したら奨学金を出しましょうというのは、どこでもやっていると思うのですが、不合格の学生に再チャレンジする際に半額支給している学校はほかにはないんじゃないかと思います。またN1合格時の4単位付与については入学時の総合ガイダンスで説明するので、その時に「私、N1持ってます」という学生がいたら、取得1年以内であればやはり4単位付与します。

—— 取得した資格によって単位が付与される、アドバンスプログラムのようなのですね。

提供するサービスや制度に利用する価値がなければ学生たちは動きません。OUCHI COMMONS は可能な限り管理をしないようにという開放す



るような意識をもっています。留学生にとって OUCHI COMMONS は「第三の家」がコンセプトですから、管理されない場所を作る、見守るというのも私たちの一つの使命だと考えているんです。

—— まさにその通りですね。学校側としてはどうしても管理する方向になってしまうのですが、その発想を変えてみる必要もあるわけですね。さて次の話題ですが、外国語学部の国際日本学科は150名の定員で留学生が50名、日本人が100名と聞いています。日本人学生はどんな勉強をするのでしょうか。

国際日本学科は2022年4月に開設された新しい学科です。国際日本学は世界の中にある日本をグローバルな視点で捉え、発信する学問と言われています。この学科は異文化理解、協働学修、グローバル共生社会から実践的な言語コミュニケーション能力を持ち、日本を世界に発信する能力を身につけ、グローバル共生社会に直面する課題に取り組むことができる人材を養成しています。

—— 2年次には国内留学が必修となっていますね。国内留学の制度について伺います。

2年生の前期に行うのですが、国内留学は外国人留学生が対象で、日本人学生は海外留学になります。国際日本学科は2022年に開設されたので、2023、2024年とこれまで2回行いましたが、こ

れは国際日本学科の看板プログラムで面白い取り組みだと思っています。特に留学生が国内の地方大学で、日本文化やその地域の慣習などを学ぶ機会として、とてもよいプログラムだと思います。

—— 相手の大学は、現在は地方の四つの国立大学となっています。国立大学がこうしたことを引き受けることができるんですね。帝京大学の留学生を4か月間、50人ということで一つの大学が十人以上受け入れていることになります。受け入れ先の開拓からプログラムのすり合わせまで、すべて自分たちで立案するというので、ご苦労も多いのではないのでしょうか。

当然すべての大学が受け入れてくれるわけではありません…断られることも多々あります。現在4校とのプログラムに共通していることは担当者の先生方が情熱をもって真剣に取り組んでいただいています。受け入れが決まった後、日本語教育等のプログラムに直接関連することは学科の先生方をお願いしていますが、生活面、特に住居については職員が担当します。これが結構大変です。具体的には、受入れ大学の国際寮に入居できる場合は良いですが、寮に入寮できない場合はマンスリーマンションやウィークリーマンションを紹介しています。これが大変ですね。

—— 東京でアルバイトをしている留学生はどうするんですか。

基本的に留学期間中は、アルバイトはできません。彼らには留学期間中はアルバイトができないことを入学時から伝えています。

—— 留学生からすると旅行気分になってしまうということはありませんか。

受け入れていただいている大学ともに真剣に受

け入れてくださっているのですが、旅行気分とはいきません。2週間とかでしたらそうなることもあるかもしれませんが、4か月も滞在することになるので、さすがにそうした気持ちは払拭されます。そしてその地方の留学生と接触して中で、だんだんと変わっていくのだと思います。留学生もその土地の慣習や文化、日常を過ごすことで、自然と変化するところがあるのではと思います。

—— 次に、留学生就業力育成プログラム (Teikyo International Challenge Program TICP) についてお伺いします。これは日本語力の強化と就職促進プログラム、大学院進学プログラムだと思いますが、すべて単位化されているわけですか。キャリア教育などとすと教養科目になるのでしょうか。

共通教育科目のキャリア教育科目に属します。留学生は1年次に「留学生のためのキャリアデザイン基礎科目Ⅰ・Ⅱ」を履修して、2年次に「留学生のためのキャリアデザイン基礎Ⅲ・Ⅳ」を履修する。3年次は「キャリアデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」を履修してもらうのが一番理想的ですね。通期で4単位なので、3科目で12単位になります。また「プレインターンシップ」や「インターンシップ」もあります。

—— ずいぶん手厚くプログラムが組まれていますね。インターンシップ先というのは大学がアレンジするんですか。

大学が紹介する企業もありますが、自己開拓する学生もいます。

—— 最後に、学生募集で私どもがベネッセさんと共同運営しているWebサイト「JAPAN STUDY SUPPOT」を利用いただいています、使い勝手とか、効果とかは感じられているでしょうか。



2016年から活用を開始しています。学部別に日本語、英語、中国語、簡体字、韓国語、ベトナム語の言語で広報展開しています。帝京大学の先輩留学生の動画もアップされていて、サイトに登録している留学生に対し、言語や希望などを選別的にアプローチできる「スカウト機能」活用しています。多言語による学部情報が発信できるので、大学認知度を高めることができていると思います。10月に実施した、JPSS オンライン説明会では53名の申し込みがありました。JPSSだけの効果ではありませんが、留学生志願者数は2016年の約200人から、2023年度では800人を超える数となっており、それに伴って留学生数も倍増し目標の1000人を超えました。

—— 本日は年末のお忙しいところ、長時間のインタビューにお付き合いいただき有難うございました。留学生向けの素敵な施設ばかりでなく、やはり国際化に一丸となって取り組む教職員の熱意を感じることができました。さらなるご発展を期待しております。